

交渉速報

J R 貨物労組中央本部業務部

2024年2月16日

No. 7

2024JR総連春闘スタート！！

ベースアップ12,000円要求!!

「基準額」「最低額」「年齢保障給」も12,000円改善すること!!

昇給額表に記載されている昇給額を完全実施すること!!

契約社員及び臨時社員、シニア社員の定昇2%の実施と

併せてベースアップ12,000円を実施すること!!

～「2024年度新賃金要求の申し入れ（申第4号）」第1回交渉報告～

中央本部は本日、「2024年度新賃金申し入れ(申第4号)」と「諸要求改善に向けた申し入れ(申第5号)」を会社に提出し、団体交渉で以下の主張を行ないました。

- ①会社の経営状況は、3年連続の赤字が確定的な厳しい状況である。一方で、2024年問題が本格化する年となる。収入拡大にむけて全力で取り組むために、職場で働く組合員のモチベーションを上げることが必要である。
- ②現在の離職率は他社との比較では低いかもしれないが、増加傾向である。一部の就職サイトでは、「給料が安く将来に不安を感じる」などのクチコミもある。指定公共機関としての職責に見合った、賃金を含めた待遇改善を行ない、働き甲斐のある労働条件を確立し、離職を防止し、選択される会社にするのが大切である。
- ③昨年貨物会社は、2年連続の赤字が確実視される中で、平均1,000円のベアを実施し、喜びの声があった一方で、要求額との乖離や率の要素も残したことから不満の声もあった。現在も物価上昇により実質賃金が大幅に低下し組合員の生活は増々厳しくなっている。
- ④職場では慢性的な要員不足が続いている中で、災害等による列車の遅延は日常的となっており、組合員は疲弊している。
- ⑤会社経営陣は組合員のおかれた現実を真摯に受け止め、鉄道特有の技術を持った社員を他社へ流出させないことや、2024年問題という最大のチャンスを活かすためにも、信義誠実の原則に則って団体交渉を行ない、誠意ある回答を示すことを強く要請する。

これに対して会社は次のように回答しました。

- ①能登半島地震で被災された社員にお見舞いを申し上げる。幸い社員には人的被害は出ていないが、自宅等が被災された人もいる。
- ②新型コロナウイルス感染症やインフルエンザが収まっていない現状であり、体調管理に気をつけて、指定公共機関として最大限の輸送力を確保して頂いていることに感謝申し上げます。
- ③会社の経営状況は厳しい現実であるが、回答指定日まで真摯に交渉を行なっていく。

申し入れに引き続き、会社から収入動向・輸送量動向についての団体交渉を行ないました。主な内容は以下の通りです。
(次ページへつづく)

【鉄道事業部門】

- ① 1月の収入動向は、元日に発生した能登半島地震をはじめ、雪害と暖冬の影響によりコンテナと車扱い共に計画を下回った。コンテナ全体では対計画△1億4千7百万円（98.2%）、車扱いは対計画△1億2千4百万円（90.9%）となった。その結果、全体で対計画△2億7千2百万円（97.1%）となった。
- ② 1月のコンテナ輸送量は、食料工業品や自動車部品が堅調に推移したほか、積合わせ貨物は、宅配便取扱量が減少傾向にあるものの、2024年問題等に伴う鉄道シフトにより増送となった。一方で、化学薬品は一部顧客における輸送終了や需要低迷に伴う生産量減により荷動きが低調となった。車扱いは、石油が暖冬傾向により灯油及び重油を中心に需要が低調となった。
- ③ 2024年問題や環境問題により、一部顧客から鉄道にシフトする動きもある。荷主へのアプローチを継続し、新規・増送案件を成約させ計画の達成をめざしていく。

【事業開発部門】

- ① 関連事業について、新小岩分譲マンションは全戸完売し引き渡しを完了している。天竜川分譲マンションは昨年8月に販売を開始している。フレシア祐天寺は、入居率が100%となり、フレシア練馬桜台は2024年7月の引き渡しにむけ工事を進めている。長浜商業施設開発については2024年7月竣工にむけ工事着手している。
- ② 鉄道事業について、千葉みなとは昨年11月より土地賃貸を開始、2025年夏に物流倉庫DPL千葉レールゲートの竣工にむけて工事中である。このままの状況で推移すれば、計画は達成できる見込みである。
- ③ 今後は営業部と一体となった営業を展開し、引き続き鉄道輸送への誘致及び総合物流サービスの展開を進めていく。

中央本部は、「収入計画については経営責任において達成させなければならない。しかし、離職率は会社発足以降過去最高となっている。その理由は『賃金が低いこと』と『将来に対する不安』である。これらの改善を進めていかなければ、今後鉄道貨物輸送の担い手が不足する。賃金改善が貨物会社の業務運営を左右する大きな岐路となる。会社としての誠意を示すべきである」と主張しました。

会社は、「貴組合の意見はしっかり受け止める。離職者は多くなっているが、理由は様々であり、離職防止対策をしていかななくてはならないと認識は持っている。しかし、2年連続の赤字決算となり、今年度も厳しい経営状況である。回答指定日にむけて真摯に交渉を行なっていきたい」と回答しました。

本日の申し入れにより「2024JR総連春闘」がスタートしました。中央本部は、物価上昇等により実質賃金が目減りするなかで、社会的使命を果たそうと職場で奮闘する組合員の労苦に報いるため、ベア要求満額獲得にむけ最先頭で闘う決意を明らかにし、第1回交渉報告とします。

以上

次回、第2回交渉は2月26日(月)です。